

「顏真卿の書」⑥

宋環碑

唐・大歴七年（772年）

碑側



碑陰



碑側



碑陽



碑額



宋環碑は、今回の顏真卿展には、展覧されなかったのか図録にも図版がない。宋環碑は、唐代の名相の一人である宋環の墓碑である。子の宋渾が父の没後、建碑を計画したが叶わず、その後、孫の宋儼が祖父の建碑を計画し、顏真卿に碑文の撰と書を依頼し、二年の歳月を要して、大歴七年（772）に完成した。河北省邢台市にある。碑の高さは、四メートル近くの大きな碑である。顏真卿の晩年の作であるが、顏氏家廟碑のような最晩年の書ではない。碑陽、碑陰の本文（②補助図版）は、前回の馬璘碑や顏氏家廟碑に見られる「顏法」特有の点画の膨よかな円みのある筆勢はあるが、少し用筆の趣が異なる。主図版の「八」字の末画、「三」字の横画などは、やはり筆勢のバランスが安定しない（①・主図版参照）。石質のためか、刻し方の問題か、または拓調のせいであろうか。他の顏氏家廟碑や顏勤禮碑などには、見られない特徴である。日本の書道界の比田井天来らにより、この碑が注目された。しかし碑陽の書ではなく、碑側の更に独特の不思議な趣を示す書風である。次回は、碑側の書を紹介しよう。

伊藤滋（書齋名・木鶏室）

書道芸術院

令和の群像 (2019)



島田白露

「ソウソウ ソウソウ」

改元報道の中でピックリしたこと。改元の年秋に新天皇のもとで行なわれる大嘗祭に用いられる米の産地が、亀トによって京都府と栃木県に決まつた、と。エ? 今でも甲骨の占いが、実際に行なわれるんだ…。目の前で高校の書道の教科書の3ページ目くらいと、現代というページがホチキスでカシャッと結ばれた気がしました。

でもそれはある意味で賢い方法なんです

ね。その県の選定を会議で決めようとしたら大問題。さっさと神の意志として占いで決める。それが祭祀の大もとに。

その前に驚いたのは、平成までのすべての年号が、単なるめでたい漢字二つの組み合わせでなく、漢籍の中に根拠を求めて決められてきた、という事実です。二世代前までは、学問といえば漢籍を読みとくことから始まっていたことを思えば当然かも、と思いますが、よくぞナショナリストの反発もなく、二千年近く続いてきたものです。

小学4年から高校の部活まで、種谷扇舟



第71回書道芸術院展 「白楽天詩」

島田白露書

先生に御指導いただき、古典を学んで線をふやしながら、現代の書、表現する書をめざしていました。10年間のブランクのあと、お許しを得て扇舟門下に再度加えていただき、公募展は現代詩でスタートしました。

数年して漢字部に移りました。作品の題材にする漢詩を選ぶのにはいつも難儀します。多少なりとも詩の内容に共感でき、あまり難解でないものを、と。現代詩を選ぶ気持ちと近いのかも知れません。写真の作品は、書き出しの読み下しがソウソウ ソウソウ…でリズムが良く、深夜戸外に出て、月が明るく、一面の蕎麦の花が雪のように白く輝いている光景に引かれて書きました。

現代に生きながら、なぜ昔の中国の詩を書き続けているのか、とも思いますが、日本語全体が、部厚い中国の文字文化と、漢字の流入以前からの豊かなやまとことば。それに一字一字漢字をあててと、いう膨大な努力、ついにはあの美しい平安のかなが生まれ、という重層構造になっていて、私の悩みもその一端にすぎないのだな、と。日本人はなぜか漢字が好きで、今日もテレビで難解な漢字の単語をやまとことばに置きかえるクイズに若い人々が夢中になっている様子です。

線の細い子どもだった私にしばらいいお手本で生命力を吹き込んでくださった飯高和子先生、扇舟先生亡きあとも長きにわたり指導いただいていた辻元大雲先生、種谷萬城先生に心から感謝申し上げ、これからも自分なりの道をたどり歩んでいきたいと思います。

漢字(三)

最首翠風

かつて元東京学芸大学教授の伊東参州氏が書道について「書は文字を素材とする造型芸術であると言わしめる迄になった」と概歎を込めて述べていたが、長文の漢字書家はこの理念に依っているのだ。

書道者に読むことは期待していないのだ。造型芸術・視覚芸術として鑑賞して貰えれば。この考えが現代の書道界の主流である。



第65回記念書道芸術院展 「桜花不變」
最首翠風書
省。

11大震災後の想いを語句化したものだが、「讀」を入れるべきだったと反

すると文字を書く意味は?との問い合わせ生じる。そこで「墨象」というジャンルが生まれるのは当然の成りゆきであろう。私は文字を捨てたくない。文字のもつ思想・哲学を大切にしたい。そして鑑賞者に内容を理解することと同時に書作品として鑑賞してほしい。その為に短字数の語句を選ぶのだ。短文だからと言ってすぐに理解出来るとは限らないが手がかりは掴みやすいだろう。又なるべく現代人も通用する語句を選ぶ。自作することもある。納得する言葉に出会った時作品が生まれる。「桜花不變」は3・

古典臨書について
書の学習に古典臨書は欠かせない存在だが、なぜ古典を臨書するか記されているものは意外に少ない。この機会を得て、臨書の意義について、次の4点を挙げたい。
①書学の教材・手段としての普遍性
そもそも、古典臨書が書学の教材であり、学習の手段として普遍的に位置づけられていることに最大的意味がある。会派や師匠が異なるても、学ぶ古典は変わりなく、その臨書が書学の中心に据えられる。古典(臨書)が存在しなければ、書芸術 자체が存在せず、根拠のない自分勝手な作品が横行し、書を介した意思疎通は成立しない。
②多様な書字表現の理解
書体や書風など、多様な書字表現を受容し、それを主体的に評価する能力が養われる。鑑賞力とともに、その深度が増すことに意味がある。
③字形を把握し再現する能力の養成
文字造形の把握力、書字行為による再現能力が養われる。
④様々な用筆法の鍛錬
用筆法に関わる思考力、毛筆に関する機能理解力、書字行為による再現能力が養われる。
①については、書学の自明的大前提と言えそうだ。②については、初学者が臨書を積み重ね、それま



第66回書道芸術院展「悲しい無敵」大隅晃弘書

現代詩文書(三)

大隅晃弘

でに見えなかつた古典の魅力を得していく姿を想像すれば理解できるだろう。③と④については周知のことだが、常に同時展開することこそ「古典臨書」だと思われているようだ。しかし、時に③と④は各自単独的に展開できると考えるようになった。「字形」と「用筆」を敢えて分離して臨書することが可能ではないかということだ。分離した複数古典の「字形」と「用筆」を組み合せ、再構成していくためだ。

「用筆」を目的であつてはならない。創作物での自己表現を目的とするならば、臨書での学びは、創作の手段として蓄積されていくべきだろう。

令和元年度 第55回書道芸術院単位認定講習会のご案内

書道芸術院単位認定講習会を下記の通り開催します。お誘い合わせの上ご参加ください。

なお、このご案内は、審査会員候補並びに審査会員の皆様に送付しております。無鑑査並びに一般の皆様にもご案内いただければ幸いに存じます。

記

- 目的 総合団体である本院の性格から、所属部門以外についても幅広く学習し資質の向上を図ることを目的とする。(審査会員になるには、本講習会の受講が必須)
- 期日 令和元年(2019)8月24日(土)9時30分 開会～8月25日(日)15時15分 閉会
- 会場 ホテル 天坊 ☎ 0279-72-3880 <https://www.tenbo.com/>
〒 377-0195 群馬県渋川市伊香保町伊香保396-20
- 主管 北関東総局長 金井 如水
〒 370-3104 群馬県高崎市箕郷町上芝415-5 ☎ 027-371-2706 携帯 090-5789-0360
- 内容 単位認定 8講座 理論(書道芸術院史、原拓書道史)
実技(漢字、かな、現代詩文、篆刻・刻字、前衛書、書写)
- 費用 講習料(運営費)

A 講習会参加(8/24・25参加)	26,070円	C 後泊(8/24・25・26参加)	39,100円
B 前泊(8/23・24・25参加)	37,070円	D 前後泊(8/23・24・25・26参加)	50,100円
E 日帰り参加(8/24・25参加)	21,710円	昼食2回、懇親会参加、集合写真代、サービス料を含む。	

※教材としてテキスト、篆刻・刻字用材料などは、個人で購入していただきます。

※出店業者…未定

※会費は、申し込み後、決定者へ通知時に同封する振込用紙で納入してください。

- 科目と講師(講習順序は、受講者決定通知時にお知らせします)

【漢字】 小林 琴水	【かな】 平川 峰子
【現代詩文書】 浜田 堂光	【篆刻・刻字】 佐藤 香山
【前衛書】 板垣 洞仙	【原拓書道史】 種谷 萬城
【院史】 辻元 大雲	【書写】 広瀬 舟雲

- 申込方法

- (1) 定員150名(講師団・役員を含む)資格は問いませんが下記の資格を優先します。
① 審査会員候補 ② 審査会員 ③ 無鑑査 ④ 一般
- (2) 申込期限 令和元年6月10日(月)
- (3) 同封の参加申込書に記入の上、下記の事務局に郵送で申込をしてください。
※ 申込受付後、受講決定者には、詳しい要項と会費払込用紙をお送り致します。

事務局 講習会事務局長 北村 白琉
〒370-3605 群馬県北群馬郡吉岡町北下177
携帯 090-4013-6343 自宅電話 0279-54-8022

〈解説〉六朝とは、魏呂蜀の三国時代（220～280）から隋が統一王朝を建てて（589）までの南方六王朝と、北魏その他北方の各王朝、すなわち「魏晋南北朝」の時代を指すが、書道で六朝の書というと、一般的に北魏時代のものを指す。この六朝の書が注目されたのは清代のことである。清時代になって、碑・墓誌銘・摩崖などを研究するいわゆる碑学が盛んになり、

新しい碑も発見され、六朝の書の研究は大いに進んだ。明治13年（1880）に来日した楊守敬によつて日本に北魏の拓本が伝えられた。下部鳴鶴・中林梧竹・嚴谷一六らは大きな衝撃を受け、新たな書法を試み始めた。彼らの活動は日本の書道界に新風を吹き込み、後世に大きな影響を与えた。

(編集部)

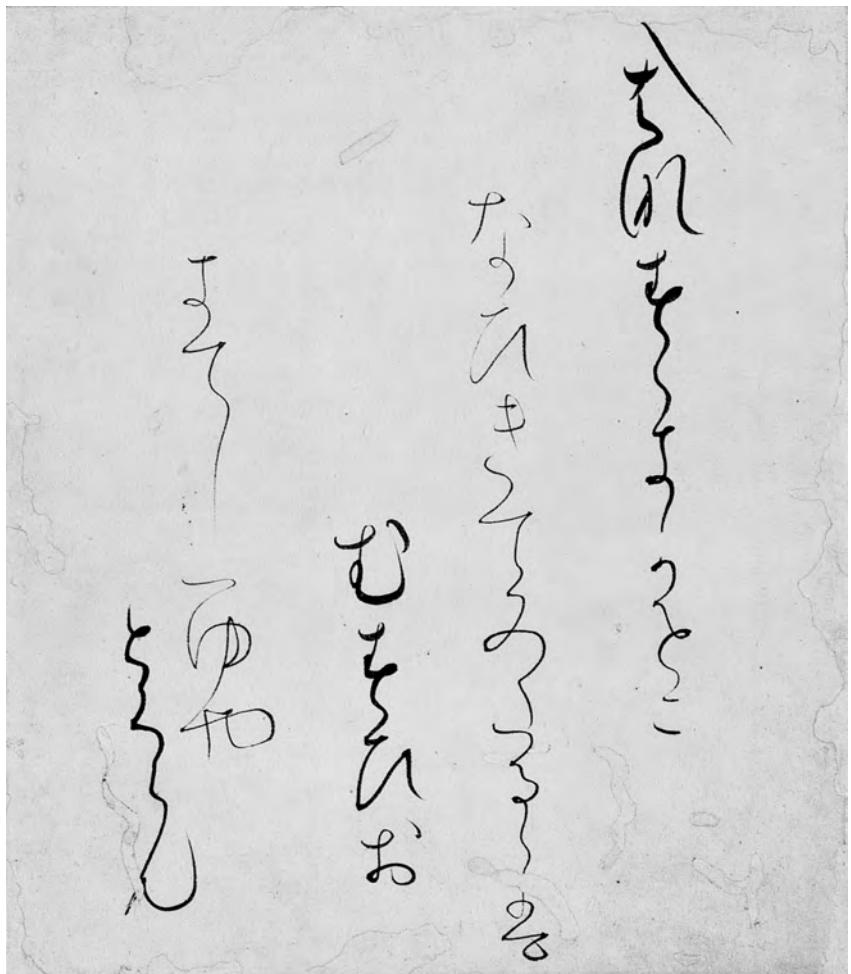


(掲載図版85%に縮小)

漢字研究部臨書課題 = (半紙普通判・縦使用) 上記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 = (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）



〈解説〉 繼色紙・寸松庵色紙・升色紙は、三色紙とよばれ、流麗な筆線による連綿の美しさと、わが国特有の表現法である散らし書きによって、平安時代の仮名美的最高峰に位置づけられている。

散らし書きとは、これらの古筆のようすに、各行に長短や高低、傾きに変化をつけたり、行間に広狭の変化をつけたりすることによって、余白とのバランスを図りながら文字群を構成する表現方法である。

三色紙はもとは冊子本であったが、一冊ずつに切り離されて色紙としての鑑賞の対象となつた。

(編集部)

※古筆は原寸（以上も可）で臨書し
ましょ。
※掲載図版は原寸。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

かな研究部
臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付也可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載の歌一首を書く。

特別研究部
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

種谷萬城

夜來風雨聲
(夜來風雨の聲)
孟浩然「春曉」

昨夜は風雨の音がしていた。
月に続き『春曉』の3句目を草書

で、王羲之を参考に創作しました。
草書は簡略化され、僅かな点画の
違いで誤字になりやすい書体です。

創作に際しては、古典の臨書で正
しい字形や筆法を学び、書体字典
で校字し、草稿を作りましょう。
左記の一作は連綿を加えて書きま
した。連綿は懷素、張旭、王鐸、
傅山等が参考になります。



夜來風雨聲 よみ (夜來風雨の聲)

書体=自由



習い方解説(三)

小竹石雲

文徳武功
(郭子儀)

郭子儀



整齊な書の典型を徹底的に学ぶことも必要です。情にながされることなく、自己を加えず、非情さをもって古典と対峙することこそ書学の第一歩かもしません。

そう言つたことを欧阳詢の書から学ぼうと書いてみました。
何度もなく書いていくうちに手も動き気脈も通ってきます。ひきしまった厳しいなかの明るさ、背勢のもつ緊張感が辛苦しくならないように心がけました。

孔子廟堂碑も九成宮醴泉銘もごまかしがききません。一本一本一字一字集中して真剣に取り組んでみましょう。

習い方解説 (三)

大辻多希子

いちはつの花咲きいでわ。
今年ばかりの春ゆかんとす
(正岡子規)

すでにご存知の人もいると思いま

ますが、美しく流麗なかな作品を
書くために、初心の人には注意して
いただきをお話します。

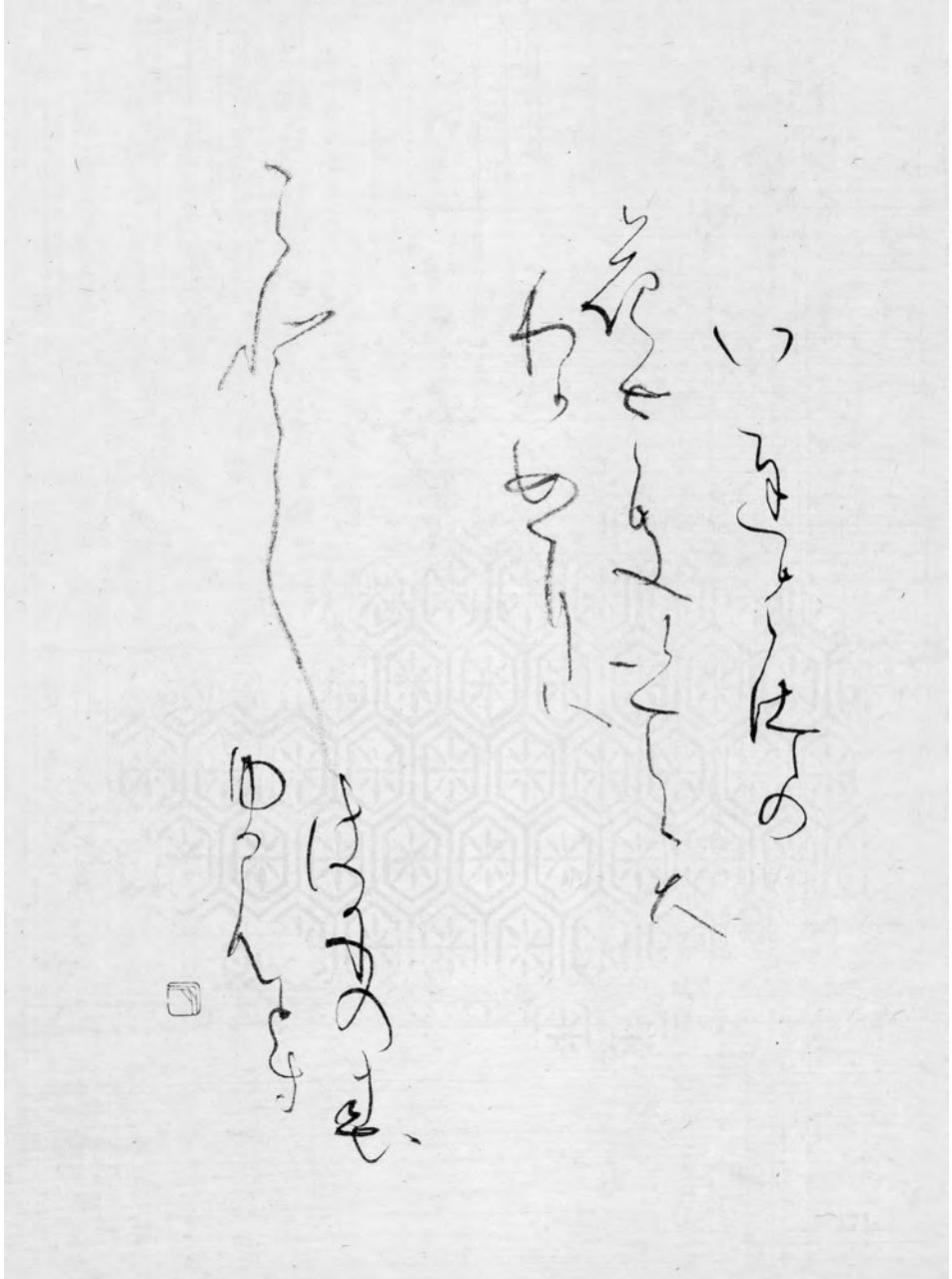
使用する紙と筆ですが、かな作
品は、長く続けて書く連綿の個所
があります。墨が入りやすい紙で
は続けて書くことは不可能です。
滲まない改良半紙の使用が適して
います。

次に筆は、鋒先の利く柳楊筆が
ふさわしく、半紙に俳句を一句書
く場合と、和歌一首を書く時も、
筆の大きさを換えると良いと思いま
す。

さらに上段者は、料紙(かな用
加工紙)を用いてかな独特の表現
の幅を広げていきましょう。

よみ方 いち(遅)は(者)つ(徒)の花咲(さ)き(支)い(以)でて(天)我(わ可)日(め)に(耳)は(八)
今年(こ登し)ばか(可)り(利)の春ゆか(可)んとす

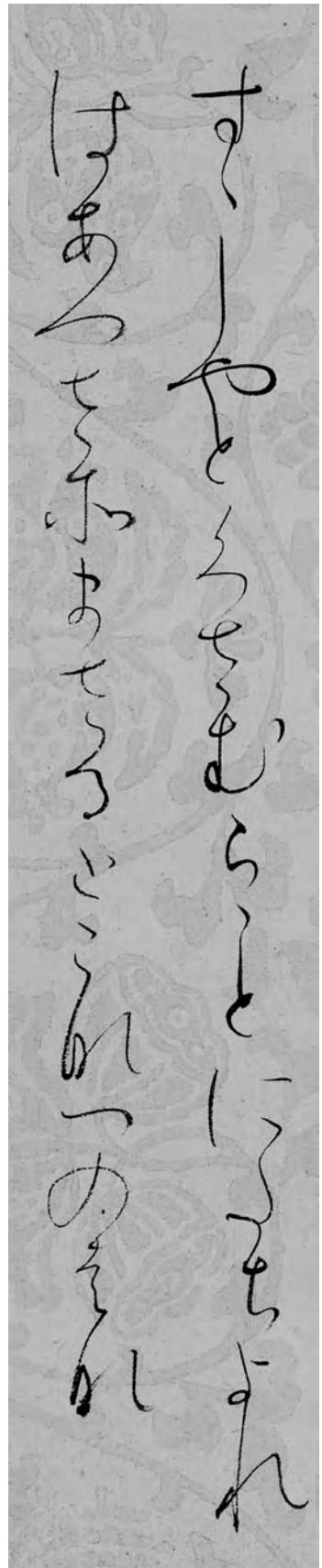
創作



かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 すず(し)しゃとく(久)さむらいとにた(多)ちよれ
ばあ(さ)ぞ(所)まさるところ(那)いのは(者)な(那)

習い方解説 (三)

善養寺 紅風

古池に水草の花さかりなり
(正岡子規)

(正岡子規)

「古池に花が多すぎてカワズが、
飛び込む隙間もない」の意。

俳句は字数が少ないため、文字
の大小、墨量の変化、疎密等で作
品の表情が変わります。

1行目下部でやや右に寄せて、
なりを添えて1行に見せるまとめ
方で、基本的な構成です。

よみ方 古池に(耳)水草の花さ(佐)か(可)りな(奈)り(利) 子規句

創作

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書

* タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (三)

名 越 蒼 竹



西向輪臺萬里餘 也知鄉信日應疎
(西のかた輪臺に向かふ、万里餘。
也知る郷信日に應に疎なるべきを。)

書体=自由

筆・墨・紙の相性や、運筆の速・抑揚には具体的に触れることが出来ませんが、それによって生じる線質は書の本質と言つてよいほど重要です。しかし創作すると字形や章法の計画性が低いと運筆に迷いが生じ、結果的に線質が悪くなってしまいます。しっかりと計画を立て、書く時は迷いなく筆を動かしたいものです。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

習い方解説 (三)

半 田 藤 扇

5文字に挑戦してみましょう。
長峰で穂先の利く羊毛の筆を使用し、筆の弾力と少し粘りのある線を取り組みました。
丁寧な書きぶりを望みます。また文字の造形にも工夫を要します。

書体=自由



人生貴適意
(人生適意を貴ぶ)

川村美泉

私は海の子 白浪の
ややくそへの松原に
煙たうびともや、
我がちうかと、往來たれ
唱歌「私は海の子」美泉書

今回は、ひらがなが多い課題です。比較的平易な連綿を使って書いてみましたが、あらためて「かな」の勉強の必要性を感じたことです。

ゆっくり書けば勢いがなくなり、早く書けば字形が崩れる・適度なスピード、緩急とリズムをつかむことが大事だと思います。ちょっとした心の動搖がペン先に表れるため、紙に向かう時の気持ちも大切にしたことです。リラックスして楽しみながらペンを持ちましょう。

「私は海の子」は、子供の時には意味も深く考えず、ただ海にあこがれて元気よく歌った記憶のある唱歌です。「白波」と表記するものもありますが今日は「白浪」と表記しているものを書きました。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

各部総評 ホーフ作品
No. 696

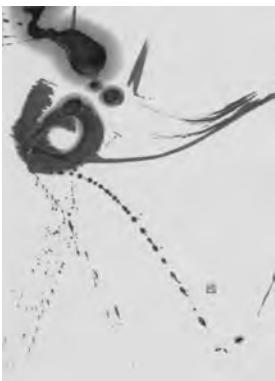
, 696

漢字部 師範 仲澤 黄翠
筋肉を感じる造像風。押されて
もビクともしない強靭さがある。
作者の個性だろうか。

北魏風の学習が出来たようだ。
(上級)墨量、紙質が線の深みを決
める要素だ。(上下級とも)(墨風評)



かな世界観に深く引き込まれる。
かな世界観部 師範 阿久澤隆華



前衛書部 特選 遠藤 和香
思いのまま紙面を自由に舞う澄
んだ線が美しい。飛沫も生かしリ
ズムを織りなすみずみずしい作品。
◎前衛書部 総評 墨色や線質を効
果的に表現するには用紙の性質の
研究も大切です。
(京子評)

平生未嘗不懶空喜
風柳檻露草雲煙

現代詩文書部 特選 茂木 輸
文字構成絶妙。縦横無尽に筆
動き、線も深い。墨の使い方も
手く、白と黒の対比が美しい。
◎現代詩文書部 総評 文字本来
書き方や美しい形を字典で調べ
書作に臨んで欲しい。（邑峰誠）

◎かな条幅部総評 全般に流れ
悪く行間狭く息苦しい作品多く
念。風が吹き抜けるような趣を
常に一遍、霞誤字要注意。明了説


卷之三

し
更なる研鑽を。
(孝子詩)

春のよこのあけぼのに
四方の山へを見わたせば
花盛りかもしら雲の
かからぬ峰、そぞろかうけれ
越天樂今様 梅香書圖

かな部 師範 楠泉 雪筆
じつくりと丁寧に運筆し、しか
も細やかな穂先の線を生かしてリ
ズムを育くむ。温かな線質に好感
◎かな部 繳評 誤字は少なかつた
が流れが組みにくいうようでした。
しつかり解釈理解し、自分のリズ
ム出るまで練習したい。(洋子評)

ペン字部 師範 山本 梅香
豊潤で弾力ある線質で、作品全体を品よくリズミカルに表現。ペン線を活かしきった見事な作品。
◎ペン字部総評 行書の「山」が曖昧な作品があった。字典で調べ

漢字条幅部 師範 東 花子
慈味溢れる柔らかな線質が、や
や控え目な字形と調和して、落ち
着いた行書表現となつた。
◎漢字条幅部 総評 上級課題は無
難にまとめた作多し。気迫、氣力
溢れる作を期待する。下級4字表
現粗ざり目立つ作多し。
(大雲評)

かな条幅部 師範 阿久澤隆華
控えめでありながら伸びやかに
自分らしさを描ききって見事。静
かな世界観に深く引き込まれる。

◎かな条幅部総評 全般に流れ悪く行間狭く息苦しい作品多く、念。風が吹き抜けるような趣を一切にノ遍、霞誤字要注意。(明子評)

山のすみ處
中村社子

今月の

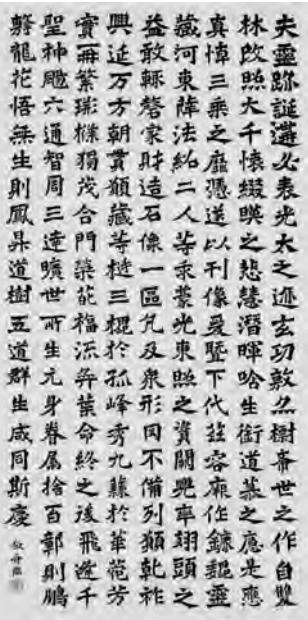
特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 半田藤扇 大辻多希子 山口仙草

臨書 (千葉)

竹浪叙舟

「魏靈藏造像記」



叢書

竹浪叙舟

西山葵龍書

137×68cm

◆前回に続いてのヒット。着実正確な中字臨書の正向法の姿勢を買う。方筆の切れ味も見事。(大雲評)

◆特徴を的確に捉え、最初の1字から落款まで筆先に集中した姿勢に敬服します。沈着した筆法は見事。(多希子評)



180×60cm

◆太字と細線表現の集団をくり返し独特のリズムを醸す。リズム感溢れる紙面構成が楽しい作。(大雲評)

◆濃墨で羊毛の筆を駆使し、集団毎に表現。大字・中字を明快に、メリハリの利いた書美が生まれた。(多希子評)

◆見事な配列、布置見事。切れ味のある筆致で格調高く、余白も美しい作品。(仙草評)

◆見事な配列、布置見事。切れ味のある筆致で格調高く、余白も美しい作品。(藤扇評)

◆超濃墨をうまく使い、流動的で表現力豊かな作。筆がよく動いて見応えあり。(仙草評)

◆濃墨の厚味ある線と鋭い切れ味の細線が動きあるリズムを生んでいる。やや上すべりの感もあり。(大雲評)

◆インパクトのある構成で濃墨での表現見事。白と黒の配置が変化を生み重厚な作となった。(藤扇評)



180×60cm

現代詩文書 (白珠)

西山葵龍

「真島昌利の詩」

前衛書

三浦朱鳳 「爽」

（篤信）

22

(多希子評)

◆北魏の書の筆勢をよく捉え、見事に紙面を圧す。穂先まで行き届く快作。筆者の腕の見せどころ。(藤扇評)

◆特別研究部の常連。北朝の剛健な特徴をよく捉え、筆力のある伸びやかな臨書。格調高い。(仙草評)

前衛書 (玄象)

大村直子



大村直子書

180×60cm

◆ 淡い墨色の中に少し黒を添えた表現。潤渴の変化、コントラストの趣は、前衛書の中でも心をひかれる。

(藤扇評)

◆ 太く充実した書線で単純化し明るくまとめた。さらに淡墨の墨色の変化に期待する。やや中心に書きすぎか。

(仙草評)

◆ 黒と淡墨とのコラボが趣を深く感じさせる。陰影に富む表現に二つの集団の大が小が解け合っている。

(多希子評)

「占」

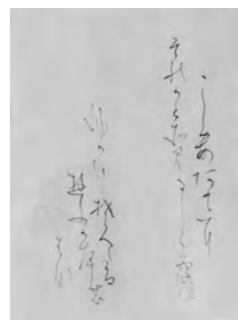
かな (A I) 藤村昌子「夕顔の花」



藤村昌子書

46×170cm

部分拡大



◆ 料紙半紙一枚に一首表現。淡い色の料紙に潤渴の変化が美しい。かな作品の表現を熟知された趣を感じる。

(多希子評)

◆微妙な色合いの料紙に品よく一首を一紙に構成している。渴筆部のくい込みが今一つの感あり。(大雲評)

◆料紙の風合いを發揮され、一首を美しく表現。構成と線の響きに魅了される。若さ溢れる佳作となつた。

(藤扇評)

◆美しい料紙6枚によくまとめた佳作。渴筆はきいているが墨量の扱いに配慮されたい。(仙草評)

◆迫力の中に静寂な雰囲気を醸し出すところは、なかなか表現力豊かな感性の持ち主。落款も眼を引く。

(藤扇評)

◆鋭いスピード感のある見事な表現。1字目の「和」の表現と落款について配慮されたい。

(仙草評)

◆強靭な氣骨ある線条に圧倒される。線の粘りが妙味を醸している。ゆるぎない渴筆は魅力的。

◆大胆豪気な氣風での隸書3文字表現。思い切りのいい運筆が氣宇の雄大さを生んで好感。落款一考を。

(多希子評)

畠中成山書



180×60cm

漢字 (大拙社) 畠中成山 「和氣動」

創作の部

45点

漢字

4点

かな

3点

前衛

16点

漢字

22点

かな

2点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

16点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

22点

漢字

20点

前衛

10点

漢字

22点

かな

3点

現代

漢字研究部
(魏靈藏造像記)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



鶴田恵子

漢字研究部 特選 鶴田恵子

重厚でいて切れ味鋭い書風を見事に再現した臨書に感服。点画の間の取り方も素晴らしい、観察眼も抜群であると感じました。「靈」字の口三つの部分がやや弱く惜しい。小さい部分をしっかりと書くことを、次の課題にぜひ。

◎漢字研究部総評

一般に、古典を臨書して勉強したとは、全

臨して初めて言えることです。一ヵ所を繰り返し練習前に、全体を一度書いてみることによって、文字の結体や運筆リズムの特徴をつかむことができます。その上で競書として清水したい箇所を一層細かく觀察し、正確で特徴をつかんだ作品に仕上げていきたいと思ひます。原帖のどの部分を何文字書くかも、出来映えに大きく影響しますから、しっかりと考えたうえで取り組むようにしましょう。



桃良紅良祥
琉舞春清藍
爽彩紫桂蘭
道麗美
麻和加江
水矢流梢
泉乃汀耀水
風香子彩舟

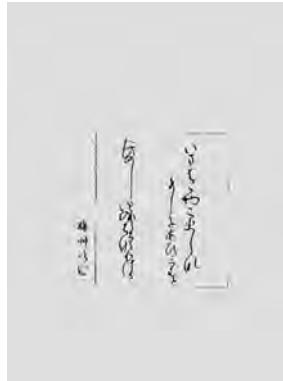
魏靈藏造像記
友香臨

夫靈跡誕邁必表
光大之迹玄功既表
敦々樹希世之作自雙林改照大千

か な 研 究 部 (升色紙)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



早坂梅艸

かな研究部 特選 早坂梅艸
濃く太くどっしりした線と、渴筆で繊細な線の対比が美しい。重り合った行の濃淡の変化も良く表現し、綿密に原帖観察した力作です。

◎かな研究部総評

今回は墨色の変化、散らし書きの美しさなど全般に良く特徴を捉えていましたが、重ね書きの部分に誤字が散見、字母を把握し古筆特有の字を確認します。

かな研究部成績表

A 花蘭有う姪玉 舞鼎秋る和松秀	澄如菊大蘭大高紅石大玉玄上明正宗椿春京干清A 青紅樹 春月雲鼎阪井風習雲松穹泉漢華苑翠汀橋葉月！蓬萊原	特選
伊市石飯安青 藤川川高藤木 サ	宇綿新堀川鍛榎田松中橋千本嶋木茂平渡吉菊境池沼原早 田實井切崎治田畑丸林本葉多 原木山子田地野田島坂 寿与か 川	特選
寿悦チ洋幹裕葵 子子生子子郷	春智恵幸優俊和美愛清紅陽和赤輝眞紀佑泰和信奎春梅 華子雲亮子石香霞子桔子水子子峰子心汀艸	特選
高陵佳	玉菊高蓮A 前橋 川月崎紅I	上了東玉桜 上了玉竜紅 澄竹書秀大高颯高秀青も正た澄 泉か向松草 泉か松泉瑤 春原游歎拙雲葵真韻蓮く華か春
會木作 (50書)	谷宮松本堀春暎早浜昌長苗中中樋田高須鉈新代庄惟佐驚後木加小岡岡田 知崎浦田江山尾部野山谷代村尾泉中橋木行田司名藤山藤暮納野部田佳 裕か 勇介	植田 内 紅 美英玉美幸勝は 永芝千佳桂ヶ恵雪耶雅香睦瑞葉咏光陽美良美順朱藤麻代子雨 子明江雪泉美郎算香峰子子舟心舟子艸子梢泉紀子星瓊美善子雨

正「こ明竹蓮華幸無高華竹白玉調天春硯椿大桜白千春華前」澄千京琇は水澄泉洞誉大玄 天倉千も大高一泉上生や天
選華「だ漢美紅仙扇門眞仙美鷺川布章汀水翠雲草露葉汀仙橋」春葉橋韻せ海春会譽田阪象 章吉葉く阪真宮会泉大
156 鶯吉横遊山山山柳八森森武宮三三松松松増前別深深平春林長根浪永中中中中戸戸鶴鶴辻塚田田
名沿野田山佐本本中岸瀬木谷本藤野澤上浦本村重野川府堀澤山岡 谷岸川田村野西島里里江村部田淵田
氏姓名略 千 真 橋 加 满 满 と 恵 恵 み え え 春哲子 博藤萩亞雅洋子 博藤萩亞雅洋子
将彩桜紅梅清奈奈紀友悦奈津草裕道合陽翠妙瑛信清佳彩聰久美秋時正亮星よ博藤萩亞雅洋子
太桂舟舟雅楓香玉美津舟香子睦秋子景子仙子洗月華春子花子美君子子舟丹峰喜裕子華子